

### 評価項目1 わかる授業づくりに関して

わかる授業づくりに関しては、今年度も学校全体で取り組んできた項目である。保護者のアンケートにおいて、それぞれのお子さんの登校の様子や学習の様子から相対的に高い評価をいただいている。教職員の自己評価においても、担当する授業においてそれぞれに児童生徒の実態を十分に考慮し、指導内容の精選やICT機器の積極的な活用等によりわかる授業の実践に努めている。また、今年度より教科によっては児童生徒の習熟度に応じた学習グループを編成し授業を展開している。より実態に合わせた授業の実践により児童生徒の積極的に学ぶ姿も多く見られるようになっており、今後も更なる充実にむけ継続していきたいと考えている。しかし、保護者の中には、教師の専門性について不十分さを感じているとする項目もあった。具体的記述がなかったため詳細については明確ではないが、教科指導の専門性のみならず、児童生徒とのかかわり全ての面についても意識して更に病弱教育における専門性の充実に努めていきたいと考える。日々の授業実践や指導方針等について、機会をみて更にいねいにしっかりと家庭にも伝え、学校と家庭で共通の理解のもとに取り組んでいくことが必要と考える。

### 評価項目2 豊かな心と健康な身体に関して

すべての項目において、何かしらの不十分さを感じている保護者も少数ながらいることが分かる結果であった。これについては、結果を真摯に受け止め、今後全職員で検討していかなければならないと考える。様々な面で経験の乏しさのある本校児童生徒にとって、地域との交流および共同学習は、必要であり大切であると考え。しかし、個々の特性や病気の状態、状況により実現が難しいこともあるのが現状である。現在、次年度中に近隣の学校との交流及び共同学習の実施に向け準備を始めているところである。実施に際しては、慎重に行っていく必要もあり容易に考えられることではないが、今後も長期的にまた、継続的に実施可能な交流および共同学習に取り組める機会を検討していきたいと考える。また、学校独自に行事的に行うものではなく、将来を見通した上での効果的な実施を目指し、家庭の理解も促していきたいとも考える。幸い学校内のICT機器も以前より充実してきているので、それらの効果的な活用等により種々の経験や体験の不足を補いながら、少しずつでも社会性の育成等にも努めていきたい。

### 評価項目3 自立と社会参加に関して

全体的に高い評価が得られているが、今後も児童生徒の将来に向けた進路等の適切な情報提供に努めていく必要があると考える。家庭との連携が大切であり必要な部分であるため、年3回の個別懇談を活用して家庭の理解を得ながら進めてきている。しかし、評価の低い部分も見られることから、さらにいねいな説明も必要であると考え。今年度、中学部では進路学習の一環として1年生から社会自立に向けて自己を見つめる機会を設けるようにした。早い段階から少しずつ卒業を見通して考えていくことが、児童生徒の充実した学校生活や保護者との信頼関係の構築、協力体制の確立につながっていくため、今後も日頃からよりいねいなかかわりを意識していきたいと考える。

### 評価項目4 地域への支援・連携に関して

今年度も、インクルーシブ教育推進事業による教育相談や、センター的機能を活用した学習支援、入院児童生徒等への学習支援体制整備事業による入院生への学習支援等様々に取り組んできた。病棟への

パンフレットの配布・掲示等、本校の取組や役割についての情報発信と校内における情報の共有に努めてきた。本校に在籍する児童生徒の授業に影響のないような体制で対応してきたため、保護者にとっては把握できない状況であったことが評価にも表れているものと思われる。今後も本校においては様々なケースの支援が求められていくことが予想されるので、在籍する本校の児童生徒の保護者に対しても本校の取組や役割についての発信について検討していきたいと考える。

### ～児童生徒のアンケート結果より～

#### ○学習・授業について

授業については、「分かりやすい」「分かるまで教えてくれる」などの項目でも高い数値が得られた。「勉強や学校が好きですか」の項目に対しても、ほぼ全員が「はい」と回答していることから、学習には満足しているものと推察できる。それぞれの教科で工夫を凝らして授業を展開した結果であるが、今後も更に分かりやすい授業が提供できるようにしていきたいと考える。

#### ○生活について

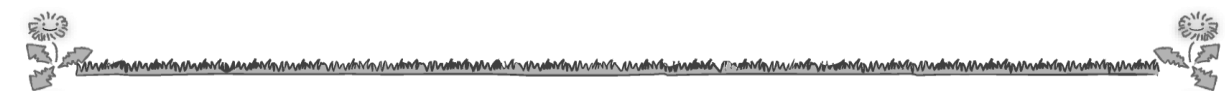
本校に通う児童生徒は、本校の児童生徒同士のかかわりがほとんどであるため、あまり悩んだりすることもない様子が伺える結果であった。友達を作りたいという気持ちがあることも結果から読み取れるが、家の近くの学校に通いたいとは誰1人思っていないという多少矛盾している部分も見られた。限られた環境で長く生活していることで、児童生徒の社会性の育ちに乏しさを感じてはいるが、児童生徒自身が社会に目を向けられていない、考えられていないことが伺える。今後、継続的な交流及び共同学習や進路学習等を充実させる等意識して取り組んでいく必要がある。

#### ○学校生活について

困っていることや心配なことは「ない」と回答する児童生徒が多く、またほとんどの児童生徒が学校生活に満足している結果であった。しかし、「困っていることを家庭で相談しているか」の問いに対し「していない」との回答が多いことも分かった。困っていることがないから相談していないとも捉えられるが、困っていても相談できていないことも考えられるため、状況に応じて家庭との連携を密にとれるよう、今後も普段からの家庭とのよい関係性の構築に努めていきたい。

#### ○将来に向けて

今の学校生活に満足はしているが、それで十分と考える児童生徒が多いことが伺える。やってみたいことや将来の進路について明確な思いを持つ児童生徒の少なさを感じる。漠然とした思いはあってもそのためにもどうするか具体的に考える等の先を見通すことの苦しさが見て取れる。少しずつでも自分で考えていけるようなかかわりを授業に限らず学校生活の中で充実させていかなければならない。将来を見通す力の育成に向けたかかわり方や支援について学校全体で考え、意識して取り組んでいかなければならない。



全職員が目標の達成に向けて日々取り組むことが、児童生徒の充実した学校生活を保障することに直接的につながるものとする。そのためにも今年度の評価をもとに、今後課題を整理し、適切に改善を図るために全職員で検討し、共通認識のもと取り組んでいきたい。次年度以降も今年度同様、竹田校は、年間を通じて在籍する児童生徒、病気等による短期間の入院に伴い転入・転出をする児童生徒、入院期間中に学習支援を希望する児童生徒と様々な支援が予想される。常に竹田校が果たすべき役割を認識し、地域への支援の在り方を含め、全職員での検討・協議・共有を十分に行い、チームとして学校全体で取り組んでいきたいと考える。